

実施日：令和 6 年 5 月 16 日（木）

【調査.1】 牧之郷駅周辺整備について

牧之郷駅周辺整備は、牧之郷地域づくり協議会と伊豆市が地元意見を基に共同で牧之郷まちづくり構想をまとめ、平成 31 年 3 月に都市計画法に基づく「牧之郷地区計画」を決定。この計画に基づき、令和元年度から 5 年間かけて令和 6 年 3 月 14 日に工事が完成した。

工事概要として、①駅の利便性の向上のための交通広場（約 2200 m²）②憩いや交流の場創出のための広場 1 号（約 800 m²）③安全で快適な歩行者空間の創出目的の生活道路整備（L=75m）④生活道路 2 号（L=160m）の整備が行われた。この事業と並行して、伊豆箱根鉄道による月極駐車場の整備も行われている。

これらの事業により牧之郷駅のイメージは一変し、広場 1 号にはキッチンカーの駐車スペースも設けられるなど、地域の賑わい創出に資することが期待される。また、現在は月極の駐車所は、一部時間貸しにすることも検討されているということで、人口が増加している牧之郷地区住民、あるいは他地域から牧之郷駅を利用して電車を利用する人が増えることも期待される。

【調査.2】 萬城の滝の駐車場と展望デッキ

この 2 つの事業は、県の観光地域づくり整備事業補助金（補助率 2 分の 1）を受けて、令和 5 年度から令和 6 年度の繰越事業として行われ、駐車場は普通車 35 台、大型車 5 台分の駐車台数となっている。視察時は駐車場周辺の法面が地肌のみであったが、これは芝の活着を考慮してこれから施工すること。

工事費は 3,976 万 5 千円、用地補償費は 196 万 200 円、立ち木補償は立木 97 本で 21 万 1,310 円となっている。

展望デッキについては、駐車場と同じく県の観光地域づくり整備事業補助金を受けて整備され、工事金額は 5,060 万円となっている。

萬城の滝はかつて裏見の滝と言われ滝の裏側を歩くことができたが、崩落で通れなくなり、地元の強い要望で崩落防止工事が行われたが、崩落の危険性を無くすことは困難で、そのため出来るだけ滝つぼの近くまで行けるように整備されたもので、実際にその先端に立つと想像以上の迫力があつた。

また、懸念していた景観への影響についても、自然木に近い風合いの再生木材を使用し、積み石についても現地調達するなどかなり苦勞して施工したとのことで、全く違和感の無いように仕上がっていた。

萬城の滝は、中伊豆地区の観光スポットとして重要な位置を占めており、これらの整備によりよりいっそう魅力度を増すことが期待される。

【調査.3】 旧八岳小学校の解体改修について

廃校となっている旧八岳小学校は、伊豆市公共施設再配置基本方針に基づき、校舎の一部（コンピューター棟）を除いて解体する。

これにより、広場は自衛隊のヘリコプターが離発着可能な広さとなり、災害時の物資輸送や住民避難に有効なスペースとしての活用が想定されている。

コンピューター棟は、玄関部分にピロティーやスロープの設置、建物内部階段の増設、トイレの改修、空調設備の更新が予定されており、また、地元区や地域づくり協議会からの要望を受け、トイレや手洗い場は、屋外からも利用できるように計画しているとのこと。

屋外では、機材庫の新設、駐車場の一部拡充、一部の樹木や石等の構造物の撤去が予定され、また、スプリンクラーの復旧も計画されている。

総事業費予算は2億900万円で、令和6年度8,360万円、令和7年度1億2,540万円の債務負担行為が設定されている。

工事日程としては、令和6年9月末で八岳体育館の利用を停止し、11月から12月に入札を行い、令和7年11月までに解体改修工事終了予定とされている。

毎年、地域づくり協議会が主体となって行われてきた、校舎をスクリーンにした八岳映画祭については、今年も開催できるように関係者と協議したいとのことであった。

旧八岳小学校は、地域住民の力で校庭の芝生化が行われ綺麗に整備されており、さらに八岳集会所とその駐車場を合わせて、多くの人が集うことができる環境にあり、この事業がさらに地域の一体感を醸成する機会となることを期待したい。

【調査.4】 冷川浄水場

冷川浄水場は、表流水を水源として1日最大2,880 m³を取水し、1日最大2,620 m³を配水している。原水は冷川水源より取水し、浄水場内の薬品沈殿池、急速ろ

過池を経た後、次亜塩素による滅菌処理を行い配水されている。

冷川配水池からは、新八幡配水池と大幡野ポンプを経て大幡野配水池及び徳永ポンプ場へそれぞれ送水される。また、新八幡配水池からは第 1 中継槽を経て大京配水池へ送水される。配水は各配水池から自然流下及びポンプにて配水区域内に給水される。

このように冷川浄水場は、中伊豆地区の水源の多くを賄っており、大事な役割を果たしていることが理解できた。

また、この浄水場の維持管理には担当職員が昼夜分かたず関わっており、安全安心な水を市民に供給していただいていることに感謝したい。

【調査.5】旧橘保育園跡地の利活用について

旧橘保育園跡地は、民間活力による宅地化が計画されており、計画地面積は 5445.90 m²となっている。

敷地北側に土砂災害特別警戒区域が接しており、その対策として重力式擁壁工が施される計画で、令和 4 年に作成された全体イメージ案では、ゆとりある区画で家庭菜園もできるなど、都市部にはない生活空間を求める人達にターゲットが向けられている。

今後民間事業者からの提案を受けることになるが、いずれにしてもこの土地が有効に活用されることを望みたい。

【調査.6】指定管理者による虹の郷の運営状況

修善寺虹の郷は令和元年度よりシダックス大新東ヒューマンサービス(株)が指定管理者として管理運営しており、現在 2 期目で令和 7 年 3 月 31 日までの管理期間となっている。

指定管理者は虹の郷の通常管理・運営以外にも自主事業を積極的に行っており、特にウォーターパークは子どもたちに好評とのこと、コロナ禍という困難な時期はあったが、入園者数は堅実に増えていて収入も増加している。

収支状況は良いとは言えないが、ネットを利用した広報宣伝など、新しい取り組みも進めているとのことと今後の運営改善に期待したい。